

## 大学図書館における視覚障害学生への支援のあり方 筑波大学を中心に

佐々木 ひかる

2006(平成18)年10月に、全国の大学や関係機関がネットワークを作り、障害のある学生に対する支援環境の整備・充実を図る取り組みを進めていくことを目的として、「障害学生修学支援ネットワーク」が立ち上げられた。このように、大学が障害学生を受け入れる体制を整えるための全国的な事業が行われる一方で、大学図書館における身体障害者サービスの取り組みの遅れが指摘されている。

そこで本研究では、図書館における障害者サービスの中心的なサービスとして位置づけられている視覚障害者サービスに焦点を当て、視覚障害学生のニーズを明らかにし、大学図書館における視覚障害学生への支援のあり方を示すことを目的として、調査を行った。

まず、文献調査では、高等教育における視覚障害者の受け入れの歴史や、大学における障害学生支援の現状、大学図書館における視覚障害者サービスの歴史と現状を把握するため、関連文献を収集し考察を行った。次に、大学図書館における視覚障害者サービスや支援の現状を把握するために、筑波大学附属図書館の職員へのインタビュー調査と中央図書館、体育・芸術図書館、医学図書館、図書館情報学図書館、大塚図書館の計5館への訪問と、必要に応じ質問紙調査を行った。そして、視覚障害学生へのインタビュー調査では、筑波大学に在学する視覚障害学生10名のうち7名に対し大学図書館の利用状況とニーズを中心としてインタビュー調査を行った。

大学図書館への調査から、筑波大学附属図書館において提供される視覚障害者向けサービスには、ボランティアによる対面朗読サービス、文献検索補助などといった人的サービス、拡大読書器などの機器や対面朗読室といった施設・設備の提供、障害者に対する搬送貸出サービスなどが行われているが、障害学生支援室などの他部署との連携が取られていないことや、職員の視覚障害に対する理解や視覚障害のある利用者の把握が十分でないことがわかった。

視覚障害学生へのインタビュー調査では、筑波大学附属図書館のボランティアによる対面朗読サービスや文献検索補助等の人的サービスが充実している点で満足している一方、大学図書館の提供するサービスや支援機器についての周知がなされていないことや、大学図書館のWebページにおけるWebアクセシビリティへの配慮が十分でないこと、提供されている施設・設備・支援機器が利用に即していないことがわかった。

これらをふまえ、大学図書館における視覚障害学生への支援のあり方として、(1)視覚障害に対する理解と視覚障害学生の把握、(2)視覚障害者サービスの広報の充実、(3)Webアクセシビリティに配慮したWebページの提供、(4)視覚障害学生のニーズを反映させた施設・設備などの提供、(5)障害学生支援室などといった他部署との連携の計5点を示した。

(指導教員 呑海 沙織)